

## コ・デンタル テーブルディスカッション1

### MFT 『こんな時どうする？』

MFT 『What do you do at such time?』

銀座並木通りさゆみ矯正歯科クリニック

○寺田 典絵

TERADA Norie

矯正診療を円滑に行う上で、安静時舌位は大変重要であり、舌癖のコントロールは必要不可欠と考えられております。また、治療のどのタイミングで、必要なレッスンをどう選択するかも重要なポイントであり、MFT 指導者のハードルも高くなってきています。

また最近では、成人矯正歯科治療患者の急増に伴い、通院のタイミング、矯正歯科治療とのアポイントの取り方(時間配分)、モチベーションの継続など、MFT の環境整備も難しくなっている現実があります。そんな中 MFT 指導者たちは試行錯誤を繰り返し、日々切磋琢磨しております。しかし、まだまだ多くの疑問を抱え?マークを残しながら毎日の臨床を過ごしております。もちろん私もその1人です。

そこで今回は、日頃臨床に携わっているセラピストの生の声を出し合い、お互いに日頃感じている思い、疑問を共有し、どのような MFT を行っているかを話していただく中で、日々の MFT 臨床へのヒントへとつなげてゆく時間にしたいと考えております。

是非! あなたの MFT 臨床を教えてください!

## コ・デンタル テーブルディスカッション2

### 唾液検査を活用したリスクコントロール

The risk control using saliva test

スマイル矯正歯科

○五戸佳奈子

GONOHE Kanako

小児、成人どちらも矯正治療中は歯列不正に加え、矯正装置を装着することで、より口腔内が複雑になり、う蝕、歯周病の罹患率が高まるとされています。

当院に訪れる初診患者さんの問診票にも「矯正装置を装着することでむし歯にならないか心配」と記入される方も多いです。そこで当院では、初診の精密検査時に唾液検査を実施し、検査結果で得られるリスクや実際の口腔内環境、生活習慣といった問診を総合的に判断し、その方にあったセルフケアの提案や予防処置を行っています。治療開始前に行うことで患者さん自身も現状を知ることができ、また歯並びだけでなく、口腔衛生や予防への関心をもっていただくことにも役立ちます。

う蝕のリスクファクターは多岐にわたっているためすべてをコントロールすることは難しいですが、唾液検査を行うことで個人のリスクをよりわかりやすく、また科学的根拠に基づいた説明を行うことが可能となります。

矯正治療で歯並びがきれいになっても、う蝕により歯がぼろぼろになってしまえば大変残念な結果となってしまいます。患者さんの歯をう蝕から守っていくためにはどのようにリスクコントロールを行えばいいのか、当院の予防システムを紹介しながら皆さんと意見交換をしたいと考えております。

## ディボンディングを見直そう！

Let's review debonding

医療法人日進会 名古屋矯正歯科診療所

### ○吉野 優香

YOSHINO Yuka

矯正装置を撤去する際には、動的治療直後のため歯の動揺や痛みを生じ、患者さんが苦痛を伴うことがあります。さらに成人の患者さんでは天然歯の場合エナメル質の破折やクラック、補綴物の破損や脱離など様々な問題に直面することもあります。

近年、ブラケットの素材や形状が多様化し、ボンディング材も光重合や化学重合など種類が多く、その組み合わせは各医院によってさまざまです。このため、転医の患者さんなど他院で装着された装置を自院で撤去する場合、普段使用しているブラケットや接着材料とは異なり撤去がより困難となることがあります。これら撤去時の諸問題を軽減するため、ブラケットの形状や撤去専用プライヤーなどの開発が進んでいます。また装置撤去後の歯面清掃についてはラバーカップやブラシで研磨剤を用いクリーニングを行うことが多いですが、当医院ではエアフロマスターの導入によって清掃時間の短縮や再着色の軽減が見られました。

今回のラウンドテーブルではディボンディングから歯面研磨について見直し、ディボンディングの日が患者さんにとって喜ばしい一日となるよう一緒に話し合い考えていきたいと思えます。

## 舌側矯正装置.018×.018 スクエアスロット ブラケットの操作方法について

Concerning the operating method for the .018×.018 square slot bracket lingual orthodontic device

E-line 竹元矯正歯科

### ○白根香奈子

SHIRANE Kanako

舌側からの矯正治療は、様々な装置や治療システムによって治療が行われてきました。

2016年には、最新の舌側矯正装置.018×.018 スクエアスロットブラケットが発売され、実際に当院においても使用しています。

従来の舌側矯正装置に比べ、.018×.018 スクエアスロットブラケットはとて小小さく、違和感の少ない装置で、スロットサイズがスクエアスロットになったことで、ワイヤーとスロットの距離が上下左右で均等になるため360度どの方向にもコントロールしやすくなり、歯の移動を効率よく出来るようになりました。

また、セルフライゲーションブラケットにすることで、ブラケットとワイヤーの間の摩擦抵抗を減らす事ができ、弱い力でスムーズに歯を動かすことができます。結紮という複雑な処置をする必要もないので、毎回の治療時間の短縮が可能となりました。

結紮を必要とするブラケットは、術者の結び方や、結ぶ強さによって、個人差が出てしまったり、スロットにワイヤーが奥までしっかり入ってなくても、結紮されてしまい、術者によって差が出てしまうという事がありました。

最新の舌側矯正装置は、キャップを閉めた時のスロットサイズが一定のパッシブセルフライゲーションブラケットで、確実に奥までワイヤーが入っていないとキャップが閉まらない構造になっています。よって、術者のスキルの差に関係なく歯を正確にコントロールする事が出来るのです。

しかし、ワイヤーの交換が、スムーズに簡単となったとはいえ、舌側矯正治療においては高度なハンドリング操作や、工夫が必要な時もあるかと思えます。

今回のテーブルディスカッションでは、舌側矯正装置のシステムの進歩や発展についてご紹介をさせていただき、舌側矯正装置のハンドリング操作の工夫や、注意点を実際に模型を活用しながら、ディスカッションを行い、技術の向上を目指したいと思えます。

## 矯正歯科医院における今後の 歯科技工士の役割

The role of dental technician as in the orthodontic clinic

株式会社スマイル・アート・カンパニー

### ○白川 友 絵

SHIRAKAWA Tomoe

一般に矯正歯科技工士は、矯正歯科技工物の作製が主な仕事である。診療所勤務の場合、患者やスタッフをはじめとした様々な人との接触があり、実際顔を合わせた上でのつながりのある仕事になるため、やりがいのある職種であると言える。特に女性歯科技工士の場合は、受付業務や歯科助手業務を求められることもあり、歯科医院経営においてもとても重要な位置であると言っても良い。

したがって歯科技工士も、身だしなみやコミュニケーション能力が問われる時代になっていると言える。また一般歯科においては、補綴をはじめとした一般歯科技工の場合、CAD/CAM を用いた歯科技工が多く行なわれている。それは矯正歯科も同様であり、われわれ矯正歯科技工士もできる限り早く対応する準備を完了していることが望ましい。模型の読み込みや管理、3Dプリンターによる作製はもちろんのこと、顎変形症、ポジションナー、リンガルブラケットのためのセットアップも PC 上で操作できないといけない。そのため、頭蓋部の解剖や個々のトルク値、咬合については理解しておく必要がある。

今回、私が院内で取り組んでいる業務について供覧させていただき、今後の矯正歯科技工士の業務内容を検討したいと思う。また、皆様の取り組みをお聞きし、矯正歯科技工士が未来ある職種になるよう検討できればと思う。

## クリニックスタッフからの情報発信/ SNS とホームページの活用術

Effective promotion of your Dental Practice via SNS and websites

株式会社USEN事業開発統括部デンタルソリューション事業推進部

### ○神谷 光 子

KAMIYA Mitsuko

現在の情報社会の中で、歯列矯正に関する多くの情報は、インターネットを通じて各矯正歯科学会のホームページやポータルサイト、またクリニックのホームページなどのWEBサイトから得られることが多くなっているのが世界共通の認識となっており、その内容の重要性は高くなっている。その中でも矯正歯科治療をこれから受信する予定の方も、現在すでに通院している患者さんも「生きた情報」として、近年は Blog や Facebook、Twitter、Instagram をはじめとするソーシャルネットワークシステム (SNS) を利用することが流行でもあると思われる。

しかし、各クリニックで行われているHPやSNSを代表とする情報発信はどれだけ有効に活用されているかは明確にわかりづらい面もある。クリニックと患者様を結ぶ役割として活躍している歯並びコーディネーター資格を持っている方々やこれから資格を取得する予定のクリニックスタッフが現在どのように情報発信をされているかを討論することで、今後さらに十分な活用方法を探ることができれば、患者さんにとって有用なものになるのではないかと考える。さらに、現在のHPに関する広告規制などについて最新の情報を得て、理解することは医療機関にとっても重要なことである。

今回は本会賛助会員である企業として、その専門性を活かしたディスカッションが出来れば良いかと考えている。